域で補助要件緩和
設計費など最大2／3

機能を一定の地域に集める「コンパクトシティー」を目指す市街地再。JR前橋駅から群馬県庁を結ぶ軸や飲食店が集積する中心商業地を決め、設計費などの補助対象となる再開発事業の条件を緩和するの観にも配慮しながら再開発を進め、空洞化や建物の老朽化が進む中心はかる。

クトシティーめざす

中心市街地でも駐車場として使われている例が多い（前橋市）

前橋市の中心市街地には昭和30～50年代に建てられた建物が多い。老朽化に加え、郊外型商業施設の進出に押されるなどして一部しか使われていなかったり、空き家になっていたりする例が目立つ。市街地のビルが解体された後、新しい建物ができず、跡地が駐車場として暫定的に使われていることも多い。

補助要件が緩和される「重点施策区域」に、中心市街地の約71㌶を指定した。区域内では法に基づく再開発事業の条件となる地区面積が、通常の「5000平方㍍以上」から「1000平方㍍以上」に緩和される。

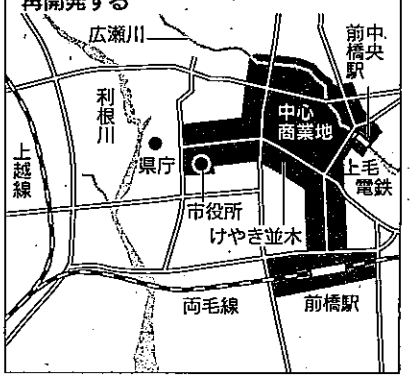
地権者らがまとめた再開発計画が市に認可されると、設計費や立ち退きの補償金などにかかる経費が最大3分の2まで補助される。補助要件の緩和で民間主導の再開発を後押しする。期間は今年度から10年間。

重点区域は前橋駅と県庁を結ぶけやき並木沿いの一帯や、文化施設や飲食店などが散在する広瀬川河畔など9つのエリアに分かれる。それぞれの地域に合った整備方針を定めた。

ただ、いずれの区域でも低層階に商業や交流機能を誘導し、街のにぎわいを創出していく。

前橋市の山本龍市長は「駐車場ばかりが目立つ現状は問題。街の中心部の威厳のようなものを意識し、歴史や自然を踏まえた前橋らしい街づくりを進めたい」と話す。

市は今後、次世代型路面電車（LRT）も視野に入れた公共交通網の再構築計画や、都市再生特別措置法に基づく「立地適正化計画」などの策定も進める。少子高齢化社会でも安心して住み続けることができるコンパクトシティーの具現化を目指す。



群馬の四万温泉 日経 5/9
健康増進 タニタ連携

群馬県中之条町の四万温泉は健康器具メーカーのタニタ（東京・板橋）と組み、6月中にも観光と健康を組み合わせたヘルスツーリズム事業に乗り出す。群馬の温泉文化と、県内野菜を使った料理を活用して新たな旅行プランを企画する。

四万温泉協会とタニタが共同で年齢や体の状態に合わせた入浴法、運動プログラム、料理レシピなどを考案する。例えばタニタの管理栄養士と旅館の調理師らで、見た目の豪華さを保ちながらもカロリーを抑えたメニューなどを作る。

モニターツアーも実施する。そこで集めた旅行客の声も生かし、四万温泉は来年3月以降に一般向けに旅行メニューの販売を始める計画だ。

事業名は「『プチ湯治とヘルスケア』四万（しま）せんか」。経済産業省の事業としてこのほど採択を受けた。国から最大2500万円の事業費を受ける。

県産野菜使う旅行企画

丸1ポイント上昇
0.1ポイント上昇
八型連休商戦が好調

は3カ月前と比べ行でやっと従来の受注量改善」や「悪化」の水準に戻った」（出版を指数化したもの・印刷関連）などの声が出ていた。調査は茨城、DIは0・3ポ低栃木、群馬、山梨、長野53・3となった。の各県の現場担当者200人に実施し、171人、九州など5地域から回答を得た。

《景気ウオッチャーの声》

分野	現状	業種・職種	コメント
家計動向関連	○	一般小売店（代表者）	暑さが激しく、エアコン、冷蔵庫などの動きがよくなっている。特にエアコンの買いかえ需要が出ている
	□	旅行代理店（副支店長）	北陸新幹線の開業に伴い金沢方面への旅行客は増加している。ただ運賃改定によるバス離れが原因なのか、団体旅行は鈍い
	△	タクシー（役　員）	燃料費の微増と人材が不足しており、やや悪くなっている
企業動向関連	○	食料品製造業（営業統括）	国内外からの来訪者が15%増加しており、順調に伸ばしている。低コストワインから高価なワインまで幅広く伸びている
	□	司法書士	世界遺産の町になったが、景気がよさそうなのは飲食店ばかり。町の景気は上滑りしており、まだいいところには達していない

（注）○：ややよくなっている、□：変わらない、△：やや悪くなっている

タツミ、大卒採用を倍増 来春から

自動車部品メーカーのタツミは2016年4月の新卒採用から、大学卒業者の採用を増やす。従来年2～3人だった大卒に10人程度を今後5年ほど継続的に採用していく。同社は自動車のブレーキや電装品向け部品の生産や販売をアジアや北中米で拡大。今後現地で技術指導や経営を任せられる人材の確保を狙う。

同社は従来も毎年5～6人を採用してきたが、地元出身の高卒が多く、大卒は2～3人にとどまってきた。今年4月は新卒11人が入社したが、うち7人が高卒で、大卒は4人。これを来春以降は、大卒が過半を占めるようにする。

インドネシアの工場の稼働を今期本格化するほか、来春にはメキシコの新工場を立ち上げる。一定の英語力を備えた幹部候補生を大卒中心に育てる一方、現地出身の幹部社員も育成する。

まちづくりで包括協定
URと茨城・ひたちなか市

都市再生機構（UR）は茨城県ひたちなか市とまちづくりに関する包括協定を結んだ。JR勝田駅前を中心とする市街地の活性化や、公共施設の集約などでURのノウハウを生かす。URがまちづくりで地方自治体と包括協定を結ぶのは初めて。

協定の有効期間は2016年度までの約2年間。高齢者や子育て世代に配慮したまちづくりの推進や、都市防災機能の強化などでも連携する。ひたちなか市は老朽化が進む市立中央図書館など公共施設の再配置、集約を加速させる計画だ。

URは以前にも勝田駅前の再開発事業でひたちなか市に協力した経緯がある。今後は協定に基づきまちづくりの計画案の策定や、細分化した土地の権利調整などで市を支援する。

栃木知事 T早期実現へ」
市・芳賀町が要望書

た。これに対し福田知事は「今までと同様、早期実現に向けて取り組んでいきたい。開業後も沿線住民や自動車の利用者に迷惑のかからないよう検証していく」と述べた。

これまでも市が県に要望書を出したことはある。

群馬県内の鉄道 自由に乗り降り

JR東「世界遺産パス」

東日本旅客鉄道（JR東日本）は群馬県内の鉄道会社を自由に使える「ぐんまワンデー世界遺産パス」を発売した。「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録1周年を記念した取り組み。12月末まで販売する。

群馬県内のJR（一部埼玉、栃木両県内含む）、東武鉄道（一部栃木県内含む）、わたらせ渓谷鉄道（トロッコ列車を除く）、上信電鉄と上毛電気鉄道が対象となる。新幹線や特急列車は特急券などを買えば乗車できる。料金は大人2100

地域情報ヘッドライン
日経電子版紙面ビューアーから

- 東北　仙台市で起業増、女性が活躍
- 新潟　南魚沼の国際大、シニア移住に力
- 東京　木造密集地の住み替え支援窓口
- 中部　ロボットで航空機組み立て
- 中国　フルーツゼリーもハラル認証
- 九州　アビスパ福岡、スポンサー倍増へ

▶朝刊・夕刊→地域経済（有料会員向け）

ひとつの DVD VIDEO
品寺 Kohfukuji
と歴史を訪ねて
持つ奈良興福寺には、数々の秘めます。平重衡による南都焼討からの
して迎えられ、さらなる火災によって

平成27年
お取引先への夏のご挨拶に
紙上暑中名刺広告のご案内
毎年恒例の企業経営者・代表者各位による「紙上暑中名刺広告」を、
日本経済新聞夕刊・日経産業新聞・日経MJ（流通新聞）・日経ヴェリタスにおいて実施いたします。